

新春対談

毎日新聞社 論説委員

福本容子^{ようこ}さん × 中逸博光^{ひろみつ}町長



福本 容子さん Yoko Fukumoto

1962年生。梅田区、清里小・長洲中出身。
県立玉名高校卒業後、早稲田大学・教育学部英語英文学科に進学。
1987年、毎日新聞社に入社。英字新聞記者を経て、主に経済部で記者活動。この間、アメリカ・マサチューセッツ工科大学に留学。経済部では、日米通商摩擦や日本の金融危機・不良債権問題などを担当。2001年から4年間、ロンドン特派員として主に欧州経済を担当し、その後、経済部デスクを経て、2008年経済部編集委員兼論説委員に就任。現在、TBSの情報バラエティ「ひるおび!」に金曜コメンテーターとして出演中。

町長 はじめまして。今日はよろしくお願ひします。
福本 こちらこそ、よろしくお願ひします。

**人に伝えることができる
幸せな仕事**

町長 福本さんは、論説委員、ジャーナリストとして活躍されていますが、お仕事はどのような内容ですか。
福本 論説委員というのは、新聞の社説を書いている記者のことです。毎日、論説会議というのがあり、そこで1時間半ほど議論をして、その日何を社説として取り上げるか、どのような主張にするかなど話し合います。

その後、議論を元に各分野の担当が社説を書きます。私の場合は主に経済政策や金融問題です。また、社説以外では、『発信箱』というコラムを書いたりしています。
町長 もともと経済を勉強していたのですか。
福本 大学は教育学部でしたので、経済については全く勉強していませんでした。会社に入ってから、いろいろなことに関心を持ち始めました。80年代のバブル当時、日米の経済関係に興味を駆られ、一年半ほど会社を休職してアメリカ東部のマサチューセッツ工科大学(MIT)に修士留学しました。それからですね。本格的に経済を勉強したのは。

その後、議論を元に各分野の担当が社説を書きます。私の場合は主に経済政策や金融問題です。また、社説以外では、『発信箱』というコラムを書いたりしています。
町長 もともと経済を勉強していたのですか。
福本 大学は教育学部でしたので、経済については全く勉強していませんでした。会社に入ってから、いろいろなことに関心を持ち始めました。80年代のバブル当時、日米の経済関係に興味を駆られ、一年半ほど会社を休職してアメリカ東部のマサチューセッツ工科大学(MIT)に修士留学しました。それからですね。本格的に経済を勉強したのは。



毎日新聞社の経済担当論説委員として活躍され、TBSの情報バラエティ「ひるおび!」(月~木 11:00~13:50、金 11:00~12:50放送※)に金曜日のコメンテーターとして現在出演中の、長洲町出身(梅田区)・福本容子さん。経済の専門家であり、海外経験もある福本さんが、女性新聞記者としての視点から、今回、地方自治やまちづくり、男女共同参画などをテーマに中逸町長と対談。二人が語る“これからの長洲町”、その内容をお届けします。

※一部地域では、放送時間が異なります。

町長 ジャーナリストになったきっかけは。
福本 大学時代にも1年間、交換留学生としてアメリカのオハイオ州で学んだのですが、その時のセミナーがきっかけだったと思います。大学のあつた町に住んでいる女性文化人にインタビューをしてレポートにまとめるというものでした。最初は、知らない人にいきなり会いに行くのはちょっと不安でしたが、やってみるととてもおもしろくて…。こういうのが仕事としてきたらいいなあと思いました。いろいろな人に会いに行つて、話を聞いて、それを多くの人に伝えるというジャーナリストの仕事がやってみたくまりました。
町長 私も町長に就任してから、多くの方とお話しする機会があります。その中で勉強したことを、行政にも取り入れていければいいですね。福本さんはどのような時にやりがいを感じますか。
福本 自分が見ておもしろいと感じたものを文字という形で伝え、それを読んだ人から反響があったとき、やってよかった、幸せだと感じますね。
町長 でも、時には書いた記事が批判されることもあるでしょう。
福本 批判も賛成という声も全部含めて、現実なのです。前向きにとらえるようにしています。

町長 仕事の上で常に気をつけていることはありますか。
福本 独りよがりにならないこと。自分の主張には自信を持たないといけないですが、結局相手に理解してもらってはじめて意味があるわけです。記事を書く時は、とにかく読みやすく、わかりやすくを一番心がけています。また、世の中には、いろいろな見方や考え方がありますので、常にオープンに、狭くならないように、そして見方が偏らないように気をつけています。

忘れられない「ユーロ通貨導入」と「インド洋沖の津波」

町長 今までで印象に残った仕事は、どんなものがありますか?
福本 一つは欧州単一通貨「ユーロ」の誕生です。2002年1月にヨーロッパの12カ国で一斉に現金がユーロへと切り替わりました。当時、欧州特派員としてロンドンで勤務していたのですが、人間が新しいお金を作ってどういふことなのか、新しいお金を現代社会が作って、しかも複数の国の人が同じものを使うって、一体どういふふうになるのか、知りたくてたまりませんでした。ユーロ誕生の前から普及にいたるまで、ユーロを導入する国、しない国を見て回り、いろんな人にお金に対する

思いを取材できたことは、とても幸せでした。勉強になりました。新通貨が生まれる瞬間に立ち会うことが出来たのは、本当に幸運だったと思います。それと、もう一つは、2004年12月、モルディブに行った際にインド洋の津波に遭遇したことです。モルディブには冬休みの旅行で滞在していたのですが、突然、津波被害の取材になつてしまいました。自分も命を落とすところかもしれないし、人間、いつでもどうなるのかわからないものだと思いつつ、とにかく目や耳に飛び込んでくるものを必死に原稿にして送つたのを覚えていますね。

これからの地方自治体に求められる力

町長 政権交代があつた今、地方自



ような世界でご活躍されている福本さんのお考えを聞かせていただきませんか。

福本 まず、女性のいいところはポジティブ（前向き、積極的）なところです。昨春秋に、アジアの女性が経済について語り合うというイベントに関わつたのですが、そこで会つた女性たちは誰一人として、「先行き不透明」とか「懸念が多い」といった言葉を口にしたりしませんでした。いつも先のことを考えて、前向きなんですよね。あと、「ネットワーク」をつくるのが上手で、話がうまくいくとすぐ決めるんですよ。行動力もあるんだと思います。女の人があつてと参画するということは、単に女性の権利ということではなく、いろいろな意味で物事がいい方向に変わっていくということではない

治体と国の関係をどのように考えてらっしゃいますか。

福本 これからの方向性としては、地方分権をもつと進めるため、予算の使い道の自由度を上げるだけではないと思います。一方で、地方も力をつけないといけないと感じています。地方も国任せにならず、「自分の国」という意識で頑張つて欲しいですね。

町長 地方もレベルをあげないとやっぱりいけないですよ。

福本 いい意味で地方自治体間同士の競争が起きて、刺激があつて、お互いレベルアップして欲しいなと思いますね。

町長 自治体（町）が、しっかりと運営をしていかないといけないと思つています。

福本 どうしても今までは、国に任せとおけばという感覚だつたところもあつたと思いますが、これからは、自分で自分のことという「自治」という言葉通りのことをやってほしいですね。

町長 私は、町民の皆さんがいろいろなことを「知る」ということが大切だと思つています。だから情報公開を徹底的にやっていきたいと考えているんです。どんな小さなことでも知ることにより、興味が出てきます。興味があれば、自分のこととして考えられないですよ。

福本 町民の方も気付かれています。自分たちも監視しているか

しうか。女性の社会参加が進んでいる国は国民の幸福度が高いという統計もあります。

ふるさとに育まれた 思い出と友情

町長 ふるさと長洲町での思い出は何かありますか。

福本 「梅田の天満宮」です。大きな木や暗くひっそりしたところがあつて、子どもにはワクワクする場所でした。また、夏には盆踊りもありました。近所のおばちゃんに教えてもらった「炭鉞節」は、今でも踊れます（笑）。あとは、学校行事で潮干狩りに行ったこと。夢中になつて貝を獲っていると、潮が満ちてくるのが早くて……。あれは怖かったです。

町長 清里小学校の出身ですよ。

福本 はい。清里小は1学年が1クラスしかありませんでした。だから6年間、みんないっしょ。これってすごいことですよ。小学校の同級生はフルネームで覚えていきますし、誕生日を今でも思い出せる友達もいます。それだけ密な時間を過ごしたのです。最近、東京で長洲出身の友達と会う機会が増えたんですよ。何十年ぶりの交流復活で、いつも懐かしい話で盛り上がり、友達ついでいいなあとあります。

なければいけない。自治は毎日の暮らしそのもの、自分の暮らしに関わつてくることですからね。

まちづくりのキーワード “国際化”と“アジア”

町長 福本さんは、全国や世界を見ていて、長洲町が今後どういったことを行えば、町の活力が生まれてくると思いませんか。

福本 これから長洲や熊本は「ルック・ウエスト」で行つた方がいいのではないのでしょうか。東（イースト）の東京ではなく、西（ウエスト）に横たわるアジア大陸です。九州は、韓国・中国に近いので、アジアからの観光客も多く、日本の玄関になると思います。また、最近の中国の富裕層には、教育水準の高い人たちが多く、安全でおいしいものへのこだわりが強いようです。値段が高くて需要があると思います。例えば、新高梨や有明海産の海苔とか。また、人の文化的交流として、例えば、中国の学生を中学校に招くとか。できる事はたくさんあると思いますよ。

女性の参加率の高い国ほど、幸福度も高い

町長 私は、男女共同参画の推進を公約にも掲げているのですが、この

今年の目標は視野を広げること

町長 私の今年の目標は、町民の皆さんが安心して生活できるよう、しっかりと舵取りをやつていくことです。福本さんはいかがですか。

福本 東京にいる時間があまりにも長いので、国内でまだ行ったことのない所に行つていろいろ発見したいし、もっと視野を広げたいと思つています。

町長 長洲町の未来ある子どもたちに、メッセージを。

福本 おもしろいと思つたことは、とことん楽しんで、好きなだけやってみて欲しいですね。大人は、バランスみたいなものを強要するけど、どんな才能が隠れているかわからないから、「おもしろい」とか「関心をもつた」ことには、好きなだけチャレンジして可能性を広げて欲しい。それから、地球には70億人近い人がいるということも覚えていてもらいたいです。そのほとんどが、まだ会つたことのない人たちなんです。できるだけ多くの人に会つて欲しいし、世界で起きている出来事に、自分とつながりのある事として関心をもつてもらいたいですね。

町長 福本さん、本日はどうもありがとうございました。これから、お互い頑張りましょう。ふるさと長洲町から応援しています。